

**平成30年度
醸造用ぶどう生産者アンケート調査
結果概要**

平成30年 8月

北海道農政部生産振興局農産振興課

目次

○ 醸造用ぶどう生産者アンケート調査の概要（調査の目的、期間、方法、対象者）	1
○ 醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要	
① 回収率、回答者の属性	2
② 回答者の属性（続き）	3
③ 醸造等の状況、基礎情報（醸造用ぶどう栽培面積）	4
④ 問1 苗の入手・確保先	5 – 6
⑤ 問2 苗木の入手で困っていること	7 – 8
⑥ 問3 希望の苗木が手に入らなかった場合の対応	9
⑦ 問4 共同購入の仕組みの必要性とその場合の範囲	10
⑧ 問5 今後3年間に購入を希望する苗木	11
⑨ 問6 苗木の輸入	12 – 13
⑩ 問7 民間による隔離検疫施設	14

醸造用ぶどう生産者アンケート調査の概要

項目	説明
調査目的	本道における醸造用ぶどうの生産拡大に向けた施策検討の基礎資料とする。
調査期間	平成30年5月～6月
調査方法	振興局を通じ、 市町村に調査対象者への調査票の配布及び調査票の回収を依頼
調査対象者	次のいずれかに該当する方 ①ワイナリー等に自ら生産した醸造用ぶどう原料を契約出荷している生産者 ②自ら醸造用ぶどうを栽培・醸造している生産者 ③醸造用ぶどう生産への新規就農・参入希望者（研修中の方も含む） ※①～③のいずれも、生食用ぶどう品種は調査対象外 ※③の新規就農・参入希望者の方は、現時点で記載できる設問のみ回答を依頼

醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要①

■ 回収率

○ **回収率：50%（調査対象者数175、回答者数87）**

【参考】平成29年4月実施のアンケート調査回収率：62%（調査対象者数160、回答者数99）

■ 回答者の属性

○ **後志・空知・上川で、回答者の7割。36市町村の者から回答。**

市町村数：空知：8市町村(20名) 石狩：1市町村(3名) 後志：8市町村(31名)
胆振：2市町村(3名) 渡島：3市町村(4名) 檜山：2市町村(2名)
上川：6市町村(13名) 留萌：1市町村(1名) 林-ツク：1市町村(2名)
十勝：2市町村(6名) 釧路：2市町村(2名)

○ **平均52.4歳（最低27歳、最高92歳）**

①20代：2% ②30代：15% ③40代：27% ④50代：16%
⑤60代：22% ⑥70代：7% ⑦80代以上：1% ⑧未回答：10%

○ **経営形態は、醸造用ぶどう専業が4割。**

①醸造用ぶどう専業：41% ②果樹専業：13% ③果樹・稲作複合：9%
④果樹・畑作複合：21% ⑤新規就農・参入希望者：1% ⑥その他：12%
⑦未回答：3%

醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要②

- 醸造用ぶどう栽培面積は、3ha未満が全体の約66%を占める。

《栽培面積別・醸造等別回答数》

区 分	醸造用 ぶどう専業	果樹専業	果樹・稲作 複合	果樹・畑作 複合	新規就農・ 参入希望者	その他	未記入	合計	構成比
1ha未満	9	4	8	7	0	1	0	29	33%
1ha以上3ha未満	12	3	0	6	1	6	1	29	33%
3ha以上5ha未満	5	2	0	4	0	1	0	12	14%
5ha以上	7	1	0	1	0	1	2	12	14%
未回答	3	1	0	0	0	1	0	5	6%
合計	36	11	8	18	1	10	3	87	100%
構成比	41%	13%	9%	21%	1%	12%	3%	100%	

《地域別回答数》

区 分	1ha未満	1ha以上 3ha未満	3ha以上 5ha未満	5a以上	未回答	計	構成比
後 志	9	10	7	3	2	31	36%
空 知	9	4	2	3	2	20	23%
上 川	6	5	1	1	0	13	15%
十 勝	2	2	1	1	0	6	7%
その他	3	8	1	4	1	17	19%
合 計	29	29	12	12	5	87	100%

醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要③

■ 醸造等の状況

- 醸造の状況は、「自ら醸造」と「委託醸造」をあわせて、39%。
- ワイナリー等への原料出荷契約は、42%。
 - ・ 自ら醸造
 - ①している：**20名** ②していない：**49名** ③未回答：**18名**
 - ・ 委託醸造（生産者が販売）
 - ①している：**14名** ②していない：**43名** ③未回答：**30名**
 - ・ 委託醸造ではないが、購入し販売
 - ①している：**3名** ②していない：**50名** ③未回答：**34名**
 - ・ ワイナリー等への原料の契約出荷
 - ①している：**37名** ②していない：**33名** ③未回答：**17名**

※回答者数87名

■ 基礎情報（醸造用ぶどう栽培面積）

- 回答者の醸造用ぶどう栽培面積の合計値は、206ha。

【参考】 H27醸造用ぶどう栽培面積
（収穫面積）：371ha

区分	面積	構成比
後志	68ha	33%
空知	42ha	20%
檜山	27ha	13%
上川	22ha	11%
十勝	12ha	6%
その他	35ha	17%
合計	206ha	100%

醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要④

■ 問1 苗の入手・確保先

- **「道外の苗木業者からの購入」が最も多く45%**、次いで**「契約ワイナリー等からの配布または斡旋」が34%**。
- 道外からの購入は、**山形の苗木業者が最も多い**。
- 「その他」は、**自家生産ほか**。

契約ワイナリー等からの配布または斡旋

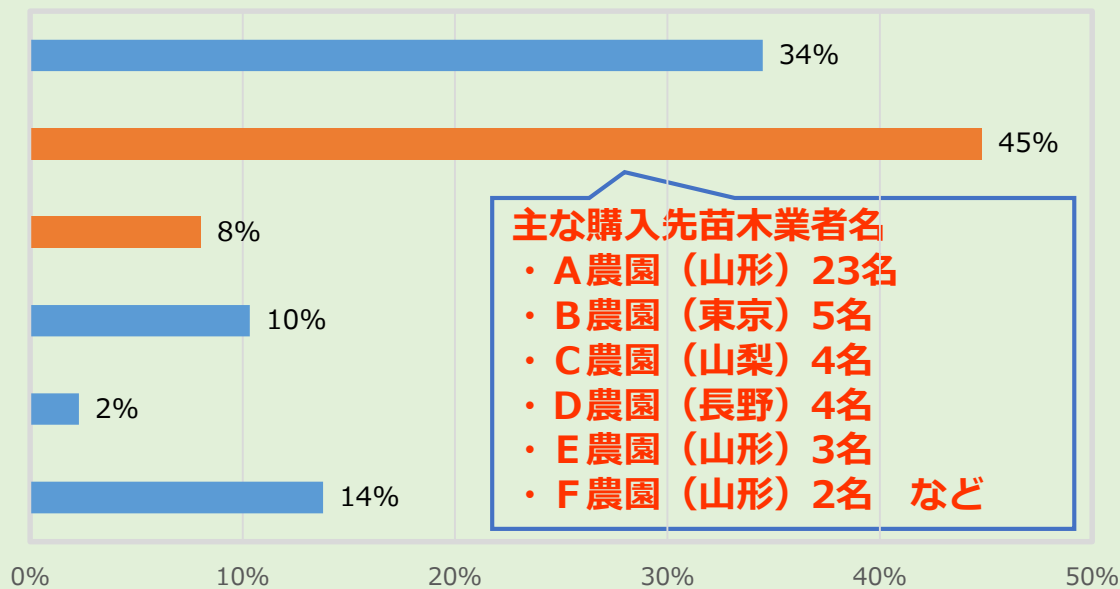
道外の苗木業者から自社・個人で購入

道外の苗木業者から農協等を通して購入

道内の他の生産者等からの購入

全部または一部を輸入で調達

その他



主な購入先苗木業者名

- ・ A農園 (山形) 23名
- ・ B農園 (東京) 5名
- ・ C農園 (山梨) 4名
- ・ D農園 (長野) 4名
- ・ E農園 (山形) 3名
- ・ F農園 (山形) 2名 など

その他の内訳

- ・ 自家生産：7名
- ・ 道内種苗業者から購入2名
- ・ 未記入2名

■ 苗の入・確保先 (複数回答可)

■ 問1 苗の入手・確保先（続き）

- **ワイナリーへの原料契約出荷を行っている者は、ワイナリーからの「配布または斡旋」が多い。**
- **自ら醸造している場合、道外の苗木業者からの調達が多い。**
- **醸造用ぶどうの栽培面積による調達方法に大きな差はないが、面積が小さいところでは、他の生産者やその他（自家生産）が比較的多く見られる。**

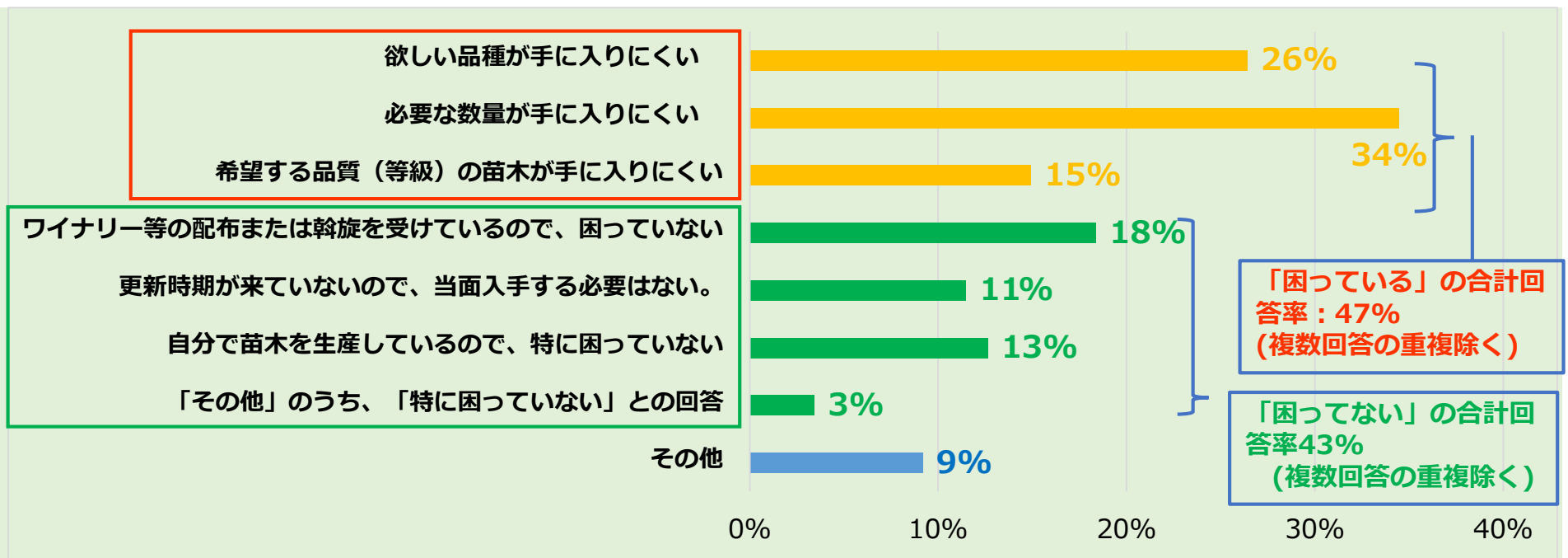
	原料出荷契約をし ているワイナリー等か らの配布または斡旋	道外の苗木業者か ら自社または個人で 購入	道外の苗木業者か ら農協等の団体等 を通して共同購入	道内の生産者	その他	計
自ら醸造	3	15	2	1	1	22
委託醸造	0	7	1	2	6	16
購入販売	0	2	1	0	0	3
原料出荷	27	7	4	1	4	43
計	30	31	8	4	11	84

区分	原料出荷契約をし ているワイナリー等か らの配布または斡旋	道外の苗木業者か ら自社または個人で 購入	道外の苗木業者か ら農協等の団体等 を通して共同購入	道内の生産者	その他	計
1ha未満	16	5	2	4	6	33
1ha以上3ha未満	8	15	2	3	4	32
3ha以上5ha未満	3	6	3	2	2	16
5ha以上	2	9	0	0	2	13
未回答	1	4	0	0	0	5
計	30	39	7	9	14	99

醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要⑤

■ 問2 苗木の入手で困っていること

- 何らかの理由で「苗木入手で困っている」との回答は、41名(47%)。
- 困っている理由で最も多かったのが、「必要な数量が手に入りにくい」で20名(34%)。
- 一方で、ワイナリーからの配布・斡旋を受けている、当面入手の必要がないなど、37名(43%)は「苗木の入手に困っていない」と回答。



■ 苗木の入手で困っていること（複数回答可）

■ 問2 苗木の入手で困っていること（続き）

《醸造等別回答数》

区分	欲しい品種 が手に入り にくい	必要な数量 が手に入り にくい	希望する品 質（等級） の苗木が手 に入りにく い	ワイナリー 等の配布ま たは斡旋を 受けている ので、特に 困っていな	更新時期が 来ていない ので、当面 入手する必 要はない	自分で苗木 を生産して いるので、 特に困って いない	「その他」 のうち、 「特に困っ ていない」 との回答	「その他」 のうち、 「特に困っ ていない」 以外の回答	未回答	合計
自ら醸造	8	7	3	1	2	2	2	1	1	27
委託醸造	4	5	2	0	1	5	1	2	1	21
購入販売	1	1	0	0	0	0	1	0	1	4
原料出荷	3	7	3	15	4	6	0	3	2	43
合計	16	20	8	16	7	13	4	6	5	95

※ 複数回答可

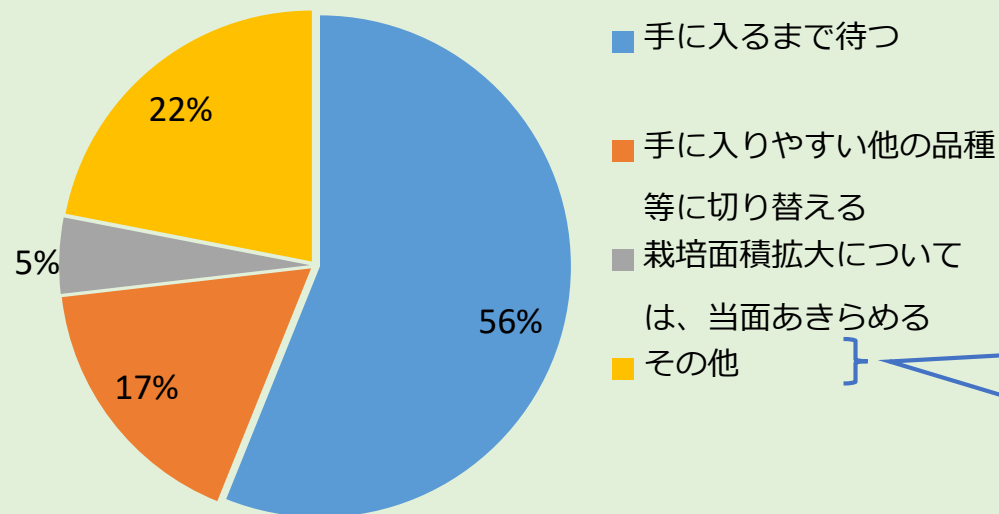
< 「その他」の内容 >

- ・ 希望の台木とならない
- ・ 苗木業者の接ぎ木本数からできあがる割合が良くない
- ・ 入手方法を誰も教えてくれない
- ・ 更新時期を迎えているがその計画を進められない
- ・ 1本の価格が高い

醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要⑥

■ 問3 希望の苗木が手に入らなかった場合の対応 (回答対象：問2で苗木の入手で困っていると回答した方)

- 「苗木の入手で困っている」と回答した41名（実数）のうち、その対応として、**「手に入るまで待つ」が最も多く、約半数の56%**、「入手可能な**他の品種等に切り替える**」は**17%**。
- 「その他」の回答は、「苗木の自家生産」や「輸入の検討」など。



その他の回答の主なもの

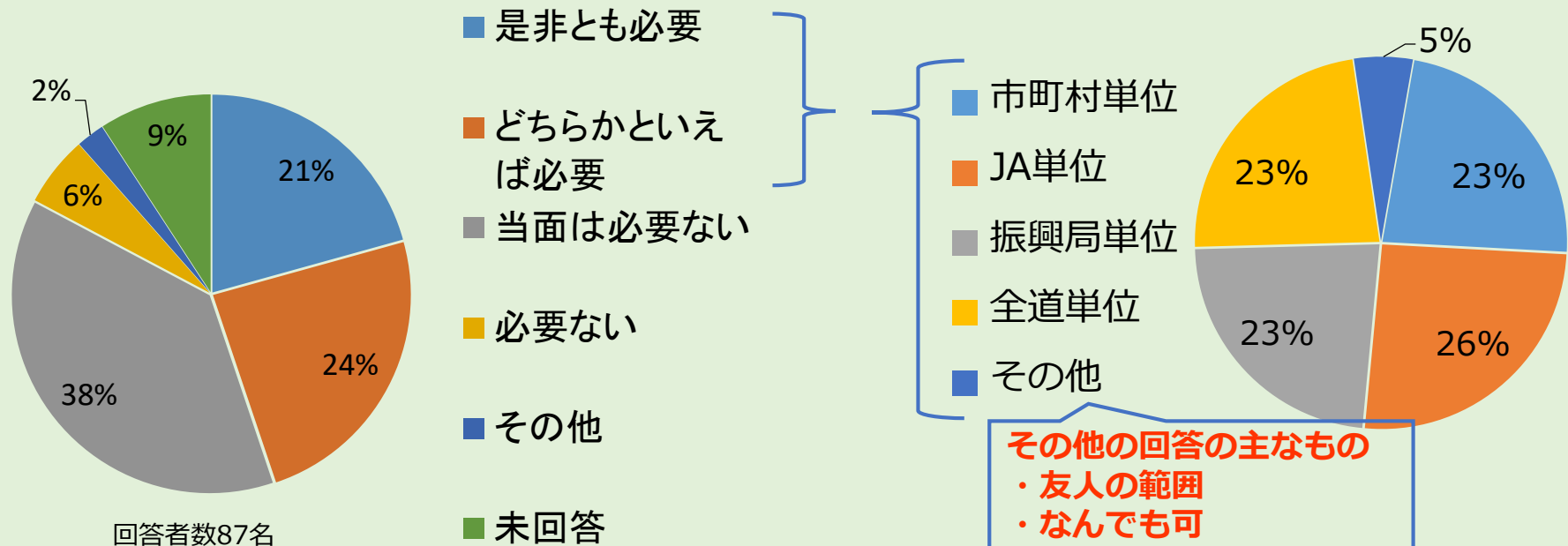
- ・ 自家生産（自根苗、挿し木）
- ・ 輸入を検討
- ・ 植栽間隔を長くする
- ・ 調達方法を見直す

■ 希望の品種、数量、品質の苗木が手に入らなかった場合の対応

醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要⑦

■ 問4 苗木の共同購入の仕組の必要性とその場合の範囲

- 「是非とも必要」または「どちらかといえば必要」と回答した方が45%。「当面は必要ない」または「必要ない」と回答した方が44%。
- 必要な場合の範囲については、市町村、JA、振興局、全道の各単位で拮抗。



■ 共同購入の仕組みの必要性、必要な場合の範囲

醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要⑧

■ 問5 今後3年間に購入を希望する苗木

- 今後3年では、約2.5本万以上/年の購入希望があるが、確保済みは少ない。
(H30-31で10万本を超えたのは、大規模生産者の需要が一因)
- 品種は、シャルドネやピノ・ノワールの希望が多い。

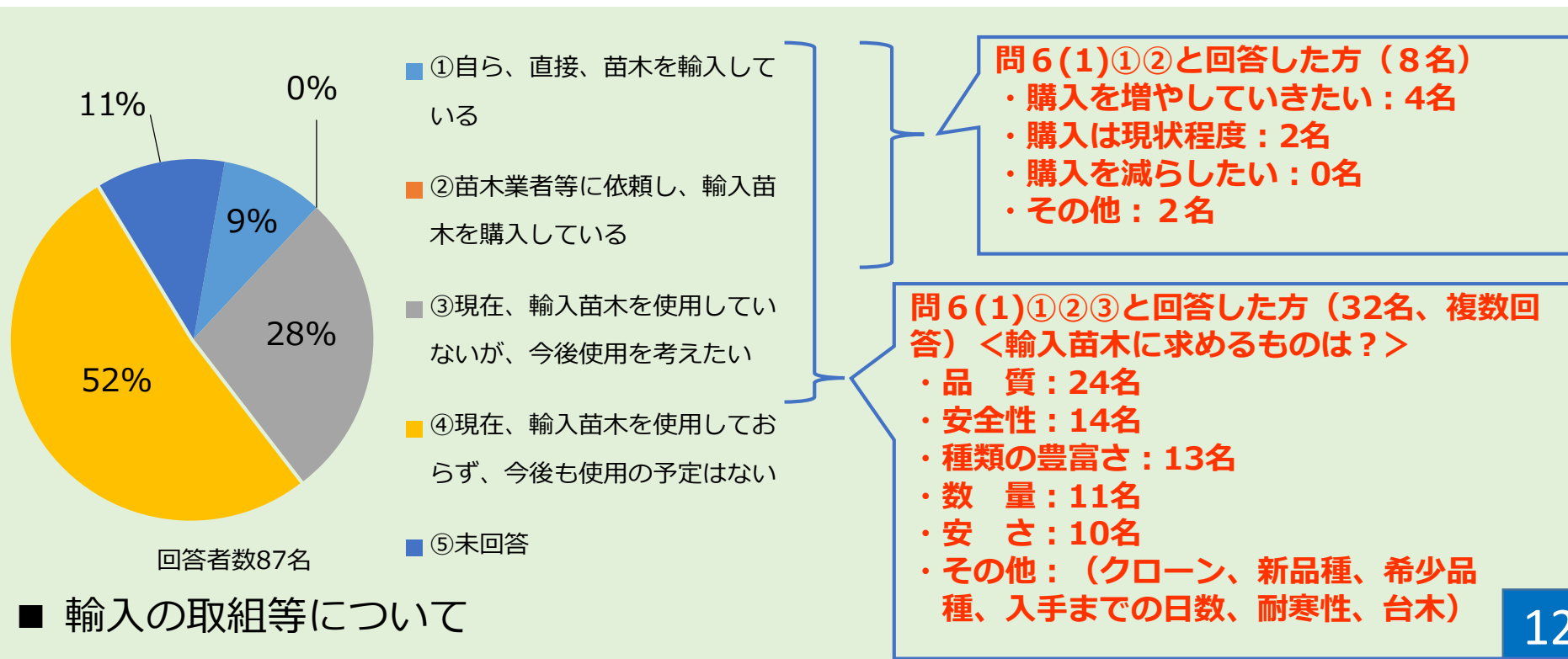
■ 苗木の年次別需要量（今後3年間）

区 分	H31植栽用			H32植栽用			H33植栽用			今後3年間 (H31-H33)合計				
	希望本数	確保済	確保率	希望本数	確保済	確保率	希望本数	確保済	確保率	希望本数	確保済	確保率	構成比	
苗木の希望本数	127,989	42,646	33.3%	29,643	5,000	16.9%	25,620	5,200	20.3%	183,252	52,846	28.8%	(対希望本数)	
主な品種	シャルドネ	38,403	8,470	22.1%	6,233	0	0.0%	1,500	0	0.0%	46,136	8,470	18.4%	25.2%
	ピノノアール	31,360	3,500	11.2%	9,450	0	0.0%	1,800	0	0.0%	42,610	3,500	8.2%	23.3%
	ツヴァイゲルト	6,304	4,104	65.1%	1,480	0	0.0%	5,800	100	1.7%	13,584	4,204	30.9%	7.4%
	ケルナー	9,125	4,835	53.0%	0	0	-	100	100	100.0%	9,225	4,935	53.5%	5.0%
	山幸	2,820	2,600	92.2%	2,620	2,600	99.2%	2,820	2,600	92.2%	8,260	7,800	94.4%	4.5%
	ピノブラン	6,550	3,300	50.4%	0	0	-	0	0	-	6,550	3,300	-	3.6%

醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要⑨

■ 問6 苗木の輸入

- 「現在、輸入苗木を使用しておらず、今後も使用の予定はない」と回答した方が、最も多く、約半数の52%。
- 「現在、輸入苗木を使用していないが、今後使用を考えたい」と回答方が、28%。また、自ら、直接、苗木を輸入している方は、9%。



■ 輸入の取組等について

■ 問6 苗木の輸入（続き）

- ワイナリー等への原料供給者は、安定的な、苗木の配布・斡旋を受けていることから、輸入苗木への期待は小さい傾向。
- 自ら醸造を行う者は、既に苗木を輸入しているか、今後使用を考えたいとの回答が比較的多く見られる。

《醸造等別回答数》

区分	①自ら、直接、苗木を輸入している	②苗木業者等に依頼し、輸入苗木を購入している	③現在、輸入苗木を使用していないが、今後使用を考えたい	④現在、輸入苗木を使用しておらず、今後も使用の予定はない
自ら醸造	3	0	8	7
委託醸造	1	0	5	8
購入販売	0	0	1	2
原料出荷	2	0	2	25
合計	6	0	16	42

○ 輸入検疫について改善してほしい点

問6(1)で、「輸入している」または「今後使用を考えたい」と回答した方の中で、輸入検疫について改善してほしい点についての自由記載。

- ・ 検疫期間の短縮化
- ・ 輸入・検疫量を増やして欲しい
- ・ 先方の検疫チェック書類を活用し、すでに国内に感染例があるウイルスチェックの廃止
- ・ 検疫項目の定めは品質を守るためには大切。
- ・ 欲しいクローン、品種があっても隔離施設が一杯で輸入しにくい。
- ・ 検疫は大事であるが、検疫施設100本/業者は少ない。民間隔離は現実的に不可能。大学や試験場の施設の活用を。

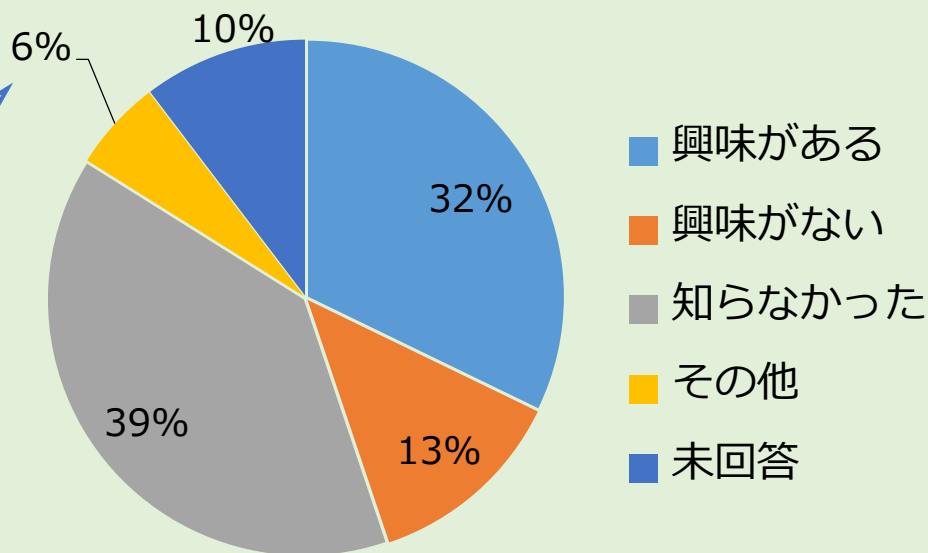
醸造用ぶどう生産者アンケート調査結果概要⑩

■ 問7 民間による隔離検疫施設

- 民間による隔離検疫施設について、「知らなかった」と回答した方が、最も多く、約4割。
- 「興味がある」と回答した方が約3割となった一方、「興味がない」と回答した方は1割弱であった。

その他の回答の主なもの

- ・国の示す施設の条件をクリアできる施設は少ないだろう。何らかの代替・対応策が求められる。
- ・一部の人たちの利用ではなく、産学官で進める事業ならば広く利用を拡充して欲しい。



回答者数87名

■ 民間による隔離検疫施設について